

緑と太陽、やすらぎのまち・城陽



城陽市の概要・独自の取り組み

城陽市は、京都からも五里、奈良からも五里と京都と奈良の中間に位置するまちです。東部が丘陵地で、西には木津川が流れ、なだらかな地形で自然豊かな環境にあります。面積は32.74㎡で、東西に9.0km、南北に5.4kmと東西に長いまちとなっています。人口は平成23年4月1日現在で79,632人となっており、ここ数年はほぼ横ばいの状況となっています。

城陽市独自の取り組みとして、平成22年度から「自分おこし事業」を実施しています。この「自分おこし事業」は、地域を活性化する為に、従来にない取り組みを城陽市民に強く訴えかける形でしていこう、という発想からスタートしました。「まちおこし」ではなく、市民一人一人が「自分」をおこそうという方向付けです。一人ひとりの努力や目的意識が、間違いなくその人たちの人生を豊かにし、その結果がその人達が暮らす地域全体の豊かさへとつながっていくというものです。



城陽市国保の加入状況

城陽市国保の加入状況は下表のとおり、人口の 3 割弱となっています。加入者の割合は微増傾向にあり、加入者の年齢構成は一般的に会社を退職する 60 歳以上の割合が高くなっています。



国保加入状況

(各年度末)

年度	世帯数 (世帯)	人口 (人)	国保被保険者		加入率	
			世帯数 (世帯)	被保険者数 (人)	世帯数 (%)	被保険者数 (%)
2 0	30,580	80,362	12,440	21,757	40.7	27.1
2 1	30,915	80,101	12,618	21,964	40.8	27.4
2 2	30,017	79,632	12,861	22,310	42.9	28.0

加入者の年齢別の状況

(単位：人)

年度	0～19 歳	20～39 歳	40～59 歳	60～69 歳	70 歳～	合計
2 0	2,201	3,871	4,281	8,111	3,428	21,892
2 1	2,170	3,838	4,035	8,567	3,522	22,132
2 2	2,175	3,709	4,016	8,747	3,828	22,475

(各年 9 月末現在)

城陽市国保の費用額の状況

城陽市国保の費用額は、後期高齢者医療制度が開始された平成 20 年度からの比較で、受診率がほぼ横ばいであるのに対し、1 件当たり費用額、1 日当たり費用額、一人当たり費用額はそれぞれ急増しており、国保財政上、厳しい運営を強いられています。

医療費の状況

区分		20年度	21年度	22年度
入院	受診率 (%)	20.446	21.703	22.693
	1件当り日数 (日)	15.11	14.58	14.74
	1件当り費用額 (円)	483,072	494,617	531,048
	1日当り費用額 (円)	31,966	33,931	36,022
	1人当り費用額 (円)	98,770	107,345	120,513
入院外	受診率 (%)	827.540	844.243	845.901
	1件当り日数 (日)	1.84	1.78	1.77
	1件当り費用額 (円)	13,373	13,542	14,024
	1日当り費用額 (円)	7,252	7,610	7,909
	1人当り費用額 (円)	110,669	114,330	118,630
歯科	受診率 (%)	180.706	182.973	190.814
	1件当り日数 (日)	2.29	2.23	2.24
	1件当り費用額 (円)	13,081	12,780	13,144
	1日当り費用額 (円)	5,708	5,723	5,864
	1人当り費用額 (円)	23,637	23,384	25,081
合計	受診率 (%)	1,028.693	1,048.918	1,059.408
	1件当り日数 (日)	2.19	2.12	2.14
	1件当り費用額 (円)	22,658	23,363	24,941
	1日当り費用額 (円)	10,363	11,003	11,680
	1人当り費用額 (円)	233,076	245,059	264,223

国保の財政運営

城陽市国保においては、平成20年度で249,643千円の赤字決算、21年度は京都府広域化等支援基金の借り入れで一旦黒字決算となったものの、22年度で再び82,679千円の赤字決算となっています。療養給付費等が非常に高い伸びを見せているのに対し、保険料等の収入がその伸びについていけないことが主要因です。

こういった中で、医療費が適正にかつ有効に使われるよう、退職者医療制度の振替、重複受診者への訪問指導、ジェネリック医薬品の利用啓発等、さまざまな取り組みを進めているところです。

保健事業

城陽市国保の保健事業ではいろいろな取り組みをしていますが、予算的に重点を置いて実施しているのが、知らず知らずのうちに病状が進行し、重篤な状況に至るのを防ぐことを目的とする、人間ドック・脳ドック助成事業です。助成金額はドックにかかる費用の 7 割としています。

人間ドックと脳ドック、両ドック併用の合計定員は、希望者が定員を上回る状況が続いている為、平成 8 年度で 300 人でしたが、平成 23 年度では 700 人まで拡大し、市民のニーズに答えています。

人間ドック・脳ドック助成事業の状況（定員）

区分(人) 年度	人間ドック	人間+脳併用	脳ドック	合計
平成 1 5 年度	200	150	150	500
平成 1 6 ～ 1 7 年度	250	200	150	600
平成 1 8 年度	200	250	150	600
平成 1 9 年度	200	300	150	650
平成 2 0 ～ 2 3 年度	200	350	150	700



特定健診

平成 18 年度の医療制度改革により、「老人保健法」が「高齢者の医療の確保に関する法律」に改正され、平成 20 年 4 月から特定健診・特定保健指導制度が開始されました。対象者は医療保険に加入している 40 歳～74 歳となっており、城陽市国民健康保険においては国保加入者を対象に健診を実施しています。受診期間は 6 月 1 日から 10 月末までとしており、受診者負担金は 1,000 円となっています。ただし、年齢や所得に応じて免除制度を設けています。

健診内容は、腹囲測定、身体計測、検尿、採血、血圧測定及び問診等となっています。健診結果により、メタボリックシンドロームのリスクの高い人には、特定保健指導を行います。



鴻ノ巣山
ローラー

特定健康診査受診状況

年度	対象者数（人）	受診者（人）	受診率（％）
2 0	14,409	5,726	39.7
2 1	14,925	5,690	38.1
2 2	15,239	6,146	40.3

※平成 2 2 年度は法定報告予想値

文化パーク城陽

